

# 超低価格アサリの生産に成功しました

## ～アサリ資源回復のための人工種苗放流が可能になりました～

### 【背景・目的・成果】

アサリの漁獲量は近年激減しており、天然で生み出されるアサリの赤ちゃんも減少していることから、アサリの人工種苗放流が必要になっていました。しかし、人工的にアサリを育てるのは大変費用がかかるため、これまで人工生産アサリの放流はできませんでした。

超低価格のアサリの人工生産を目的として、新しい飼育方法の開発を検討し、**従来の1/40のコストで大量に育てることに成功しました。**

殻長 0.1 mm 浮遊生活 → 殻長 0.5 mm 着底生活 → 殻長 1 cm

	殻長0.1mm～0.5mm	殻長0.5mm～10mm	計
従来法	0.1円/個	9.90円/個	10円/個
開発法		0.15円/個	0.25円/個

← 40日 → ← 80日 →

**従来方法の1/40のコストで大量生産可能**

### ■ 現状・課題

- ・生まれたてのアサリはわずか0.1mmで浮遊し、15日後には泳ぐのをやめて、底に沈む
- ・大きくなるにつれ**大量の餌(植物プランクトン)**を必要とし、この大量の餌を作るのに膨大な費用が必要
- ・植物プランクトンの多い**天然海域**で育成するには、高度な陸上水槽と同等の設備を備えた海上イカダが必要。また、殻長1mm以上でないと天然海域では飼育不可能



### ■ 開発技術

細かいネットを敷き詰めたカゴ(左写真)に0.5mmのアサリを收容し、植物プランクトンが多い港内に垂下することで、生産コストの大幅削減に成功



図1 兵庫県のアサリ漁獲量



### 【技術の活用】

#### 人工生産アサリの放流

試験的に放流したところ、半年で3cmに成長し、放流する前に比べて50倍の密度で生息していることが確認されました。今後は大量放流して、アサリ資源の回復を図ります。

#### アサリ養殖用種苗としての活用

近年、西播地区でアサリの養殖が盛んに行われています。養殖アサリは身入りが良く、美味で、消費者の評価も高いのですが、種苗の確保が大きな問題となっていました。本技術はこの問題の解決にもつながります。



3mmに育ったアサリ